

井戸端 市民通信

月刊

読者のみなさんのページです。17ページに掲載している広報クイズの答えと一緒に、気ままなひとこと、ちょっと言いたいひとことを、お待ちしております。

読者の伝言板

● 秋から冬は鍋の季節。きりたんぼ鍋、だまこ鍋、キムチ鍋などで寒い季節を乗り切ります！(もふもふの母さん 54歳・牛島)

● 岩手県宮古市市田老での植樹に参加しました。10歳もある堤防に立ち、すべてを津波にのみ込まれ土台だけが残る家々や巨大ながれきを見ていただけで胸が締め付けられ涙が止まりませんでした。今年は見られなかった桜も来年は少しだけでも花が咲き、笑顔になってほしいなあと願いつつの一日でした(アツプルナ 1ナさん 63歳・太平)

● 11月は秋の清掃月間です。わが家では庭園や道路の落ち葉などを拾い集めて堆肥にリサイクルすることで、ごみ減量に励んでいます。庭園の花木は今年は良く育ち来年もきれいに咲くのを期待しています(土谷猛さん 75歳・飯島)

● 秋田市緑化コンクール、いいものです。美しいものは目が止まります。散歩中でもバスの中からでもガーデンニングには心が安まり「なんて

素晴らしい」のひとつことです。みんなよく頑張って…と感心しますね(古城サヨさん 62歳・豊岩)

● ごみ袋の有料化に向け、ごみの減量がんばっています。今まで捨てていたお菓子の箱を資源化物に分けたり…。今までよりひと回り小さいごみ袋にできるようがんばるぞー(小鳥さん 35歳・手形)

● 間もなく70歳。コインバスを使って全市を回りたい。市内にいても分からない所がいっぱい。(山王のりつちゃん さん 山王)

● 「コインバスで市内の名所巡りを」と、仲良しグループで話し合っています(W子さん 70歳・茨島)

● 土崎地区が恋人の聖地！知らなかったです。どんなイベントをやってもらって秋田の婚活が進むといいですね(永田順子さん 37歳・檜山)

● 秋田ノーザンハピネットのアイウェイの試合もフォンテ秋田6階の情報発信コーナーに行けば見られると広報あきたで知ったので、ぜひ足を運ん

地域のお話 おしえて!!

被災地の物産店が秋田駅近くにオープン 大震災の記憶を風化させない

10月15日、秋田駅近くに東日本大震災の被災地の物産店“EAST BLUE(イーストブルー)”が開店しました。代表の武田雄高(ゆたか)さんは宮城県気仙沼市で薬局を営む薬剤師。自身も自宅と店舗が津波の被害に遭いました。震災後、知人から復興支援商品の販売ルートがないと相談を受けたことがきっかけで、秋田の親戚が所有する空き店舗を利用してこの店を開きました。

気仙沼市や登米市などの特産品が並ぶ店内には、写真やDVDで被災地の様子を紹介するコーナーもあります。「買い物に来てというより、被災地の現状を知ってほしい」と武田さん。“被災地のことを忘れない”。その思いも復興支援につながります。



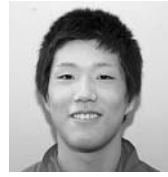
営業時間/午前10時～午後8時(日祝は午後6時まで) 定休日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 問い合わせ/☎(893)6839



武田さんオススメの気仙沼産「さんまつくだ煮」。網元だった老夫婦が作っている逸品です。



おしゃべりかわらばん



秋田商業高校ビジネス実践学習「アキショップ」に参加した加藤康樹さん(3年)

被災者の支えに

震災被災地復興応援商品のボトル水「だれかのために」をAKIマルシェで販売しました。買ってくれた人たちの気持ちに感謝します。売り上げの一部は義援金になるので、被災者のために役立ってくれるとうれしいです。

地元の歴史に感動

千秋公園の近くに住んでいるのに知らないことばかりで目からうろこが落ちました。秋田市には見どころがまだまだいっぱいあるということですよね。館長さんが紹介してくれた勝平得之の版画もすてきでした。



明德館館長講座「千秋公園と佐竹氏」を受講した堀井泰子さん(千秋)

働くって楽しいな

最初に体験したのは「広告会社」。秋商のみなさんから教えてもらいながら、いろいろなお店のチラシをパソコンで作りました。「うどん屋さん」では、自分でゆでたうどんをお客さんに運んだり…。とても楽しかったです！



秋田商業高校キッズビジネスタウンに参加した鎌田りさ子さん(勝平小6年)

狙いどおり競り落とし

水産物のせりに参加して、ズワイガニを競り落としたよ。せりは初めての経験で、こんなに興奮するなんて思わなかった。カニが好きで、開始前から目を付けていたからうれしいね。夕飯に食べるのが楽しみだよ。



中央卸売市場の市場まつりで市民参加のせりに参加した鈴木太郎さん(上新城)

いっぱい食べてね

祈音(いと)は生後10か月で、そろそろ食物アレルギーが気になるので受講しました。離乳食はほとんど好き嫌いなく食べてくれていて、試食のカボチャも完食！ 歯磨きの指導と実践もあって楽しく学べました。



河辺総合福祉交流センターの離乳食教室に参加した熊地梨紗さんと祈音ちゃん



アルヴェきらめき広場で開催されたアキショップの「AKIマルシェ」では、県内の高校生が丹精込めて作った野菜などが販売されました。

で大型モニターで観戦したいと思えます(モンブランさん 36歳・新屋)
●学習発表会でダンスをおどります。ダンスをみんなまで合わせてがんばります(みみさん 9歳・将軍野)
●仕事を持っていて主婦にとつて「あきた市民カード」は本当に便利です。会社が終わってからも自動交付機から必要書類をすぐに発行してもらえらるし、土・日、祝日でも利用できるの助かっています。わが家では家族3人分の市民カードがあります(さつちゃんママさん 49歳・土崎)

係からひとこと

広報課は4月から新たに、私を含む5人の職員の広聴担当を加え、課の名前が広報広聴課に変わりました。広聴担当は、市への要望を受け付けたり、市の施設などを巡る見学会を実施したりしています。
過去にさかのぼると一時、広報公聴課の時代もありましたが、広報課は、昭和54年度の機構改正で誕生して以来、昨年度まで実に約30年間も続いた名前でした。長い間、慣れ親しんでいたいただいた広報課ですが、これからは、広聴担当も仲間入りした「広報広聴課」をよろしくお願いします。(智)



地域支援担当がコミセンを巡回

町内会や地域団体などを支援するため、市民協働・地域分権推進課と市内4か所の市民サービスセンターに配置した地域支援担当職員が、各コミュニティセンターを巡回して「地域づくりの支援・相談・情報提供」の窓口を設けています。



気軽に相談ください

巡回日程などの問い合わせ

北部・西部・河辺・雄和地域のかた

…各市民サービスセンターへ。

北部☎(893)5968 西部☎(888)8080

河辺☎(882)5421 雄和☎(886)5550

南部・東部・中央地域のかた…市民協働・地域分権推進課(市役所分館2階)☎(866)2764